

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872201039		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき加古川		
所在地	兵庫県加古川市加古川町稲屋890-4		
自己評価作成日	平成22年2月22日	評価結果市町村受理日	平成22年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hvogo.jp/kai_gosi_p/informationPubl_i.c.do?JCD=2872201039&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	神戸市長田区萩乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成22年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の健康管理を入居者と職員が楽しんで行えるように、散歩・ラジオ体操・健康体操などを行っている。体操時には、中庭やベランダに出て外気に触れながら行っている。今年の冬季は風邪しらずの日々を送っている。日々の楽しみ事として、季節の飾りや手芸をし、作品の完成により達成感を味わっている。ボランティアの来訪があり、馴染みの関係作りができておりお話しや散歩、歌など楽しい時間を過ごせている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者が個々の生活スタイルを大切にしながら地域で暮らし続ける」ために、職員が地域との関係づくりに尽力しているのがよく伺えるホームである。地域の方々の馴染みの関係が継続できるように、「日常の散歩・買い物」「定期的なホーム行事へのご招待」「認知症・介護関係の相談窓口」「認知症ケアの啓発活動」「訪問しやすいホームの雰囲気づくり」の実践をはじめ、訪問者(利用者友人)がご遠慮なく、再訪して頂けやすいようにと、写真を添えたお礼状を送付する等のきめ細やかな心遣いも見られた。全てが関係の継続に繋がっていると感じる。地域の協力も多く頂けており、その関係性も良い。また、ボランティアの活動場所としての受入れをはじめ、地元中学の職業体験学習や福祉専門学校の学生等の実習場所として、地域の社会資源の一つとして知識還元をして貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人として掲げた理念を基に、事業所での目標を決めその実現に向けて努力している。朝礼での唱和を行い、介護職としての役割を認識し、質の高いサービスが提供できるように努めている。	事業所目標を「やさしい笑顔」「意識の統一」「決めごとの継続」と掲げ、本人本位の介護計画に則した支援に努めている。理念の実践としては、協働を重視し、「マイチャレンジ」として個人の目標設定を掲げている。	地域密着型サービスの提供事業所として、利用者個々が、その人らしく地域で暮らし続けることへの支援を今後も期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加する。地域の学校との交流を積極的に行っている。	地元の友沢自治会に加入し、地域の秋祭りや餅つき大会等に参加している。日常的に地域の方との交流に努め、小学生やボランティアの訪問も利用者の楽しみごととして定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小中学校への勉強会に講師として出向き障害者・認知症の方への関わり方を伝えている。ホームの見学や勉強の場所として提供もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3日曜日を定例としている。出席者のメンバーや人数は都度異なる。内容は、行事のこと、入居者の近況報告、包括職員さんからのお話を聞き介護保険サービスの現状を勉強したりとサービスの向上に活かしていると感じている。	毎月、家族に送付する「ほおずきニュース」と共に、運営推進会議の開催案内及び前回の議事録を同封している。民生委員の方からのボランティアの紹介やふれあい喫茶への同行等の協力をして頂いたり、地域交流に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席や行政からの新しい情報も頂けたりと、協力関係が築けてきていると感じている。	管理者が認知症サポーター養成研修の講師として、認知症ケアの啓発活動に参加している。加古川市認知症マップづくりの協力を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での勉強会、新人職員への本社研修で「身体拘束」については正しく学んでいる。ホーム全体の鍵施錠は、日中は行わない。夜間は、家庭でも鍵をかけるのと同様の感覚で施錠を行っている。	外出したいサインを見逃さないようにその原因や気持ちを洞察し、ケアに活かすことで、身体拘束をしないケアを実践している。	今後も、利用者一人ひとりの心身状況の把握に努め、拘束に繋がることのないケアの実践について、更に質の向上を目指して頂くことに期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での勉強会、新人職員の本社研修で「高齢者虐待」について学んでいる。	身近な虐待に繋がる声掛けについて、ホーム内研修で話し合っている。虐待が起こる要因をつくらないように、リラックスルーム(職員休憩室)を設け、職員のストレスを軽減することでも、虐待の予防に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症サポーター養成講座を受けた職員は権利擁護についての基本知識を学んでいる。相談があった際には、制度を活用できるように支援している。	利用者が成年後見制度を活用しているの で、後見活動の支援をしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と主任が契約を担当している。誤解を招くような説明にはならないように努めている。不安や疑問点については、具体的な例を挙げて説明をしている。	契約時には、契約の説明だけでなく介護保険制度や介護面・医療面の対応も具体的に丁寧 に説明している。契約に関しての法人内マニュアルづくりも検討中。	職員が家族よりの問い合わせや質問に対応できるように、更なる取り組みに期待をします。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に聴く体制になっている。定期的に行われる運営推進会議で、意見や要望を聞く時間を設けている。それらを運営に反映させる努力をしている。	家族の訪問時や運営推進会議の中で家族からの要望や意見を頂いている。家族より、もちつき大会の場所についての意見を頂き、実施場所の移動にも繋がっている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内で開催される会議等で意見や提案を聞く機会を設けている。運営に反映させるように努めている。	月1回の職員会議やユニット会議の他にも随時、職員の意見を聴いて検討している。 (利用者との協働の作品づくりのアイデア・ラジオ体操の実施場所・掃除の方法等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マイチャレンジを定期的 に実施している。人事考課制度を取り入れており、各自やりがいをもち向上できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社が主催する新人職員研修、キャリア形成訪問研修等を受けることができている。法人外での研修を受講させていただく機会を多くもっていただいている。事業所内での勉強会、先輩職員が指導をしていく取り組みもできている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町グループホーム協会に加入し、勉強会の主催開催している。現場で働く職員からの意見要望で勉強会の内容を決めて実のある取り組みになってきていると感じている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族からの聞き取りを十分に行っている。あらかじめ分かっている事柄は対応できている。本人からどのようにしてほしいか、どうしたいかをじっくり聞く時間をとっている。計画作成担当者がゆっくり聞くように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、本人の要望を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、スムーズな入居が難しいケースへは、同事業所内のデーサービスを利用してホームに慣れていただくといった提案をすることもある。本人にあったサービスを一緒に考えていく対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬う心を常に持ち、相手に寄り添うことを常に忘れずお互いを大切にすることを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が一度でも多く訪問したくなる環境づくりに努めている。家族がお互いを大切に思いやれることのできる支援に努めています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、友人等が気軽に来訪できる環境づくりに努めている。	近隣の友人に遊びに来て頂いたり、ホーム行事にも参加してもらっている。行事で一緒に撮った写真を添えてお礼状を送付したり等の工夫もし、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースを尊重し、その利用者の人生経験が活かせるような対応をしている。それぞれの生活ペースに合わせた支援ができるように職員は柔軟に対応している。入居者同士が支えあえるような環境づくりに努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いや暮らし方は十分に聞いていると思う。それぞれが、それぞれの暮らしが出来ていると感じている。	利用者一人ひとりの生活習慣を大切にするために「好きなこと」「嫌いなこと」を聴き取り、ケアに活かしている。「もし自分だったら」という視点で「原点に立ち返る」ことを基本に、利用者の意向の把握をしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネージャー、介護サービスへ聞き取り可能なところへは可能な限り聞き取りをさせていただいている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの立場からの意見や要望を反映して、現状に即して介護計画が作成できている。	毎週月曜日にケアプラン会議実施しているが、職員の気付きを大切にするために事前に全職員に情報シートを配布し、利用者情報を収集している。	介護計画には、事業所のサービスだけでなく、家族の支援やインフォーマルサービスを位置づけることも期待します。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提案書があり、ケース会議に活用されている。介護計画の見直しに活かしていると思っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な場合は、柔軟な支援を行う準備はある。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要とされることがあれば協働したいと思っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	利用者や家族から希望があれば、協力医療機関への受診を支援している。受診支援ノートを作成して、医師への情報提供や医師からは、処置や診断、指示内容を記載し全職員で情報共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との連携を十分に行い、入院が必要とされる場合など紹介をしていただけるように関係づくりを行っている。	希望に応じて、入居前のかかりつけ医やホームの協力医療機関を利用している。協力医療機関は、専門病院や入院先を紹介し、医療情報を提供している。入院は、安心してもらえるように職員が面会している。退院カンファレンスには家族と出席している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所ですべての事、出来ないことはその都度説明している。かかりつけ医と連絡を密にし、チーム支援に取り組んでいる。	重度化した場合の対応については、本人や家族と話し合いをしている。看取りについては、協力病院の訪問看護師の協力を得ることができるので検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社主催の研修プログラムにおいて学んでいる。勉強会で取り上げ急変や事故への対応がスムーズにできるように努めている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消防訓練を行い、入居者も緊急の対応ができるように共に訓練を行っている。近隣の消防所、自治会と協力体制を築いている。	定期的な消防訓練の他、通報訓練を実施している。災害時に備えて自治会の会長を通して、地域の方の協力をお願いしている。	災害時に備え、個人情報に配慮した上で、地域消防団との具体的な救出方法についての打ち合わせも検討されることを願います。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれの性格や行動を十分把握し、声かけの際表情や返事を観察しながら適した会話を心がけている。	利用者一人ひとりに合わせた言葉かけやその時の気持ちを理解した会話を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身嗜みには十分に注意をしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事係りが中心となり献立を立てている。季節のメニューを取り入れ、食べたいものはないか常に尋ねるようにしている。食事の準備、食事、片付けを一緒にしている。	献立担当職員が、利用者と相談しながら献立を作り、調理から後片付けまで協働している。「日曜日のリクエスト食」や「利用者と職員が協働で育てた野菜を使ったの料理」も楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態、量等の管理はできていると思う。水分摂取表、食事量記録用紙があり、一日通じて十分な察が摂れているかなど確認しながら健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自それぞれにあった口腔ケアを行っている。必要な場合は、歯科医院より訪問口腔ケアを実施してもらっている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。	本人の排泄のサインを察知して、さりげないトイレ誘導をしている。1フロアに3ヶ所のトイレを設け、どのトイレも位置がわかるように矢印を表示している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂る事、運動をする、毎朝のヨーグルト等自然に排便があるように取り組みをしている。重症化した方へは、適切な薬の服用をしていただいている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々にそった支援をしている。	同性介護を基本としている。入浴時間は、1対1での会話を楽しめる機会としても捉えている。状態に合わせて、訪問看護師の支援を得ている。希望があれば、デイサービスの大浴場を利用してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間しっかりと眠れるように、朝の日差しにあたるようにしている。身体を動かし落ち着いた昼間の生活で安眠できるように繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、2人体制で間違いのないようにしている。職員は、薬局からの薬効表に目を通し理解をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに力を発揮できるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域のふれあい喫茶、買い物、散歩、少し離れた思い出の地、自宅へ出かける支援をしている。	職員と一緒に近隣への散歩やおやつ等の買い物に日常的に出かけている。また、月1回のふれあい喫茶への他、曾根天満宮や姫路城への外出の支援もしている。家族の協力のもと、外出や外泊は自由にして頂いている。中庭では、季節ごとの野菜を協働で育て、外気に触れる機会を作っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力により、自己管理している。移動販売やスーパーでの買い物の際、個人の財布から支払うことをしてもらっている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している方もある。電話を希望されたさいには、自由に使用していた。かけることの作業ができない方は、支援をしている。手紙も同様の支援をしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調節、雑音等、居心地の良い環境づくりをしている。場所の認識ができるような工夫。季節を感じられるような飾り、花を飾ったりしている。	玄関には、季節を感じてもらえるように、近隣の方や家族に寄付して頂いた雛人形や五月人形、階段ホールには職員持参の雛人形が飾られている。リビングは、くつろげるように畳のスペースやソファが設置され、こちよいオルゴールのBGM等を流している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分で和室やリビングと距離を少し保てる工夫をしている。玄関で過ごせるように椅子を置いている。2階部分には、図書コーナーと椅子を置いている。中庭でも時間が過ごせるようにベンチを置いている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が必要とする身の回りの品を持参していただいている。入居時から日が経つにつれて、そのときに必要なものなど買い足もしていただいている。居心地よく暮らせるようにしている。	生活習慣を継続してもらえるように仏壇や馴染みの家具等の思いのある品を持参して頂いたり、本人が使いやすい家具を購入してもらおう等、本人や家族と相談している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は、本人が生活しやすいように配置を変えたり工夫している。椅子やベッドの高さの調整をしている。本人が使いやすいように整備している。介助量が多い方の居室は、安全な配置にしている。		